
はじめに

榎根 勇

愛知大学国際中国学研究センター（COE-ICCS）には、総括、政治、経済、環境、文化の5つの研究会（いずれも略称）がある。研究会の目的は、独自の研究活動を行うことと、その研究成果を博士課程の大学院教育に反映して、次世代を担う現代中国学の研究者を育成することである。環境研究会の正式名称は「現代中国とアジア世界の人口生態環境問題研究会」という長い名前である。2005年2月4日開催の環境研究会では、過去2年間の活動を振り返って、今後の活動方針について話し合ったが、名称はこの長いままにしておくということになった。それは、環境問題が生態系や人口と密接に関係した問題であり、中国の環境問題はアジア、特に東アジア全体の問題でもあることを再確認したからである。

環境研究会の最終目標は「環境改善技術の体系化」である。環境問題を研究するだけでは環境は改善（カイゼン）されないとの考えから、このような目標が設定された。そのための主査による「方法論」が本報告書の最初の論文である。この論文で問題にする「技術」の中には法や制度も含まれる。「改善」の英語に対しては、トヨタ流に、kaizenを当てたい。以上の方針に従って研究会とシンポジウムを行ってきた。2月4日の研究会でも、「東アジアは環境運命共同体であるとの認識の上に、地球環境・人口・食糧・水をキーワードにして、長期的視点から、環境改善技術の恒久策を提言する」ということで合意を得た。

本報告書は、今後の研究（とくに大学院生）のための「資料集」として作成された。過去2年間に行った環境研究会の活動を、2003年度国際シンポジウム関係、2004年度国際シンポジウム関係、環境研究会関係の3つにまとめて、国際シンポジウムと環境研究会において発表者が使用したパワーポイントを中心に編集してある。各論文には、パワーポイントの内容を理解しやすいように、短い解説を付けておいたが、この解説は環境研究会主査である榎根 勇が勝手に作成したもので、その内容は発表者のものであるが、文責はすべて主査にある。いずれ発表者自身の手による論文執筆の機会が、COE-ICCSで設けられる予定である。定方正毅論文だけは、発表時にパワーポイントの使用がなかったので、本報告書には載せていない。定方論文はすでにフルペーパーに近い形で、「愛知大学21世紀COEプログラム2003年度国際シンポジウム報告書」に収録されているので、詳細についてはそちらを参照していただきたい。

環境セッションのテーマは、2003年度国際シンポジウムでは「中国と東アジア世界の生態環境問題——持続的発展と環境問題をめぐる方法的アポリア——」、2004年度国際シンポジウムでは「中国の環境をいかにして改善するか」とした。2003年度は劉昌明と定方正毅、また2004年度は鄒驥（エネルギー）と柳下正治（環境政策）の各2名がそれぞれ国際シンポジウムの基調講演者であった。それ以外はパネリストとしての発表であったが、主査からは、自由な意見の表明を要望したので、基調講演に対するコメントというよりは、発表者自身の独自の見解という性格が強い。両国際シンポジウムの報告書は、本報告書とは別に印刷されるので、併せてお読みいただければ幸いである。
